

社会包摂について

ボランティア向け レクチャー

令和4年12月10日

東京都写真美術館 普及係 社会包摂担当 徳本宏子

「社会包摂（しゃかいほうせつ）」とは？

= ソーシャル・インクルージョン(Social Inclusion)

社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/社会的包摂>より引用

包摂 (Inclusion) ⇔ 排除 (Exclusion)

「誰一人取り残さない社会を目指す」

「その人がその人らしさを尊重して生きられる社会を目指す」

「社会包摂（しゃかいほうせつ）」とは？

= ソーシャル・インクルージョン(Social Inclusion)

社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/社会的包摂>より引用

「弱い立場」ってどんな人たちのこと…？

「社会包摂（しゃかい

社会的に弱い立場の人

- 心身に障害をもっている人
- 病気の人（持病がある、高齢者）
- 高齢者
- 子ども（一人親の家庭）
- 外国人（日本語を母語としていない人、外国ルーツなど）
- 性的マイノリティ（LGBTなど）
- ひきこもり状態の人
- 親の介護などで社会的孤立状態にある人
- その他、日常生活や社会生活に何らかの制限をうけている人

今はその状態にない人も、
何らかのきっかけで、
誰でもその立場になる可能性が
あるということ。

「社会包摂（しゃかいほうせつ）」とは？

様々な人がいる社会

日本の人口（1億2600万人※2019年）のうち…

障害者…10%

高齢者（65歳以上）…28%

子供（15歳未満）…12%

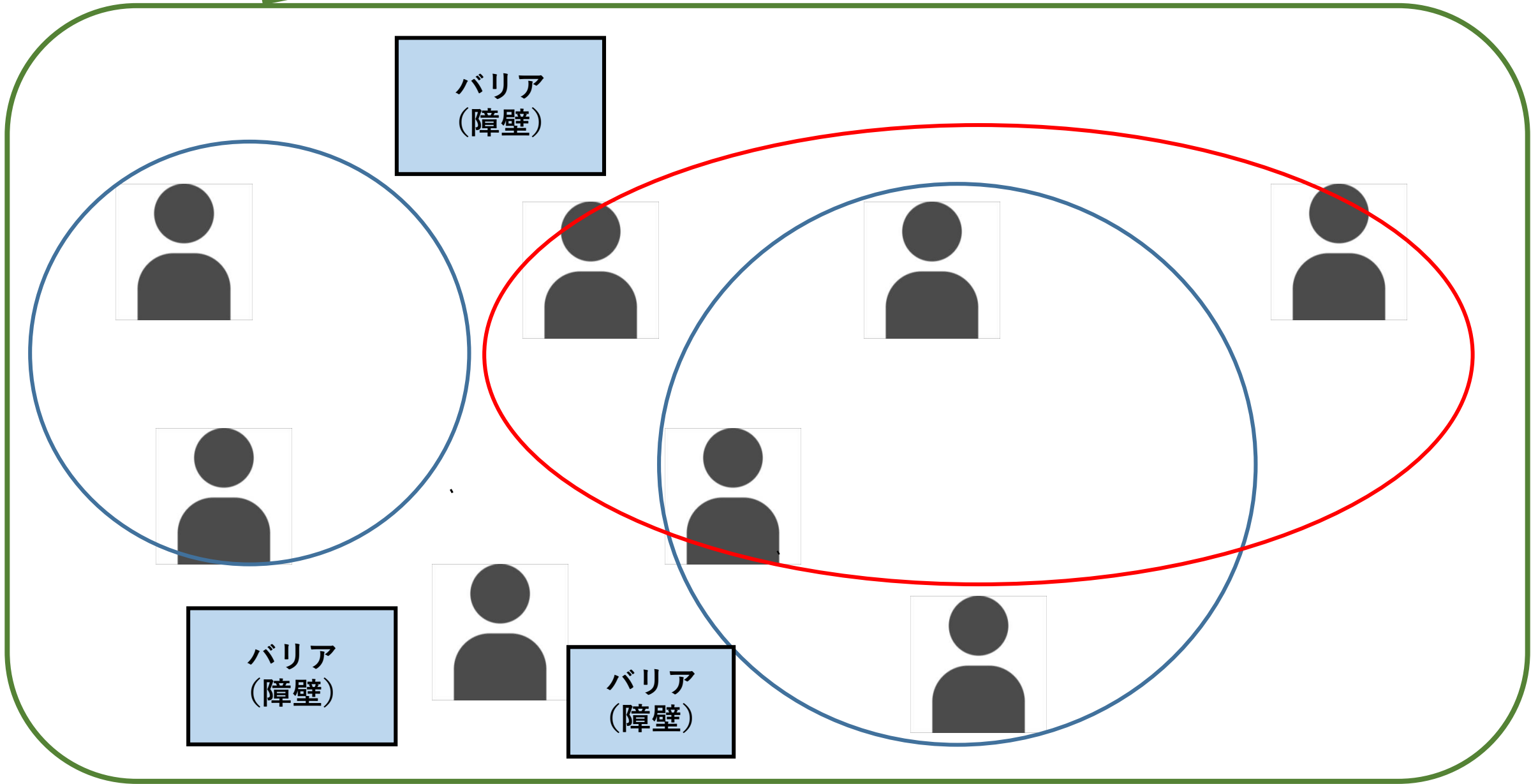
左利きの人…10%

LGBT…8%

住んでいる外国人…1%



包摂的考え方



バリアって何だろう？

物理的なバリア
建物の出入り口の段差や、届かない高さにあるスイッチなど、移動や作業を困難にするもの。

制度的なバリア
障害を理由に入学を断られる、国家資格が取れないなど、社会に参加する機会をうばわれること。

文化・情報面のバリア
字幕がついていない、音声案内がないなど、情報を得る手段が限られていること。

意識上のバリア
障害があることを「かわいそう」だと思う、偏見の目で見るなど、自分とちがうので受け入れられないと思うこと。

4つのバリアがなくなると「**バリアフリー社会**」に！
出典：国土交通省

国家資格
耳が聞こえない、目が見えない人には、免許が与えられない。

この電車は行き先が変更になりました？

バリアって何だろう？

バリアを感じている人はだれ？

このページで紹介する人たちがさまざまな場所で困っていることを、「バリアを感じている人の声」として取り上げています。声を聞いて、自分が思いこんでいる「当たり前」を見直してみましょう。

見えない
見えにくい



視覚障害

目がまったく見えない人や視力は弱けれど少し見える人などがいます。全体が見えない、もしくは見えにくい、見える範囲がせまい、部分的にしか見えない、色の区別がつきにくいなど、見え方はさまざまです。歩行を補助するために、白杖を持っている人もいます。

お話を聞いた人：上原利隆さん、藤林智子さん、三宅 隆さん

内臓や免疫の機能が低下している



内部障害

心臓や腎臓、呼吸器などの内臓の機能や免疫機能の働きが悪くなることを「内部障害」といいます。「ペースメーカー」という心臓の働きを助ける機器を体にうめこんでいる人、はいせつがうまくできないため「人工肛門」などをつけている人（オストメイト）もいます。

脳の働きの変化で心や体に苦痛を感じる



精神障害

実際には音がしていないのに聞こえたように感じたり、周りの人がみんな自分を見ているように感じたりするために、日常生活が困難になってしまう人です。「統合失調症」「うつ病」「不安障害」などの分類があります。

お話を聞いた人：藤原由佳さん

聞こえない
聞こえにくい



聴覚障害

まったく聞こえない人や聞こえにくい人がいます。聞こえ方にもちがいがあり、小さな音が聞こえにくい場合は補聴器をつけることで聞こえやすくなる人もいます。生まれつき聞こえない場合は、音声を発することが難しいこともあります。

お話を聞いた人：藤川太誠さん

手足や体が自由に動かせない



肢体不自由

手や足、体のことを「肢体」といいます。肢体不自由とは、うでや足の一部が欠損していたり、まひがあって動かなかったりするため、立ったり歩いたりという動作が難しいことです。車いすや義手、義足、つえなどを使って動作を補助している人もいます。

お話を聞いた人：白井誠一朗さん

得意なことや苦手なことの差が大きい



発達障害
知的障害

知的障害は、記憶力や言語能力などの発達におくれが見られ、学業や日常生活が困難になることです。発達障害は、生まれつき脳の一部の機能に障害があり、コミュニケーションや学習が難しいことです。発達障害に知的障害をとまなる場合もあり、はっきり分けられるものではありません。

お話を聞いた人：横口亜希子さん（発達障害のある子どもの母親）

自分の性や好きになる相手の性に違和感を感じる



エルジービィティー
LGBT

性的少数者の総称のひとつです。女性が女性を好きなレズビアン（L）、男性が男性を好きなゲイ（G）、男女どちらも好きになるバイセクシャル（B）、心と体の性が一致しないトランスジェンダー（T）の頭文字です。このほか、LGBTに当てはまらない人もいます。

お話を聞いた人：原 ミナ汰さん

心のバリアフリー

「心のバリアフリーって何？」

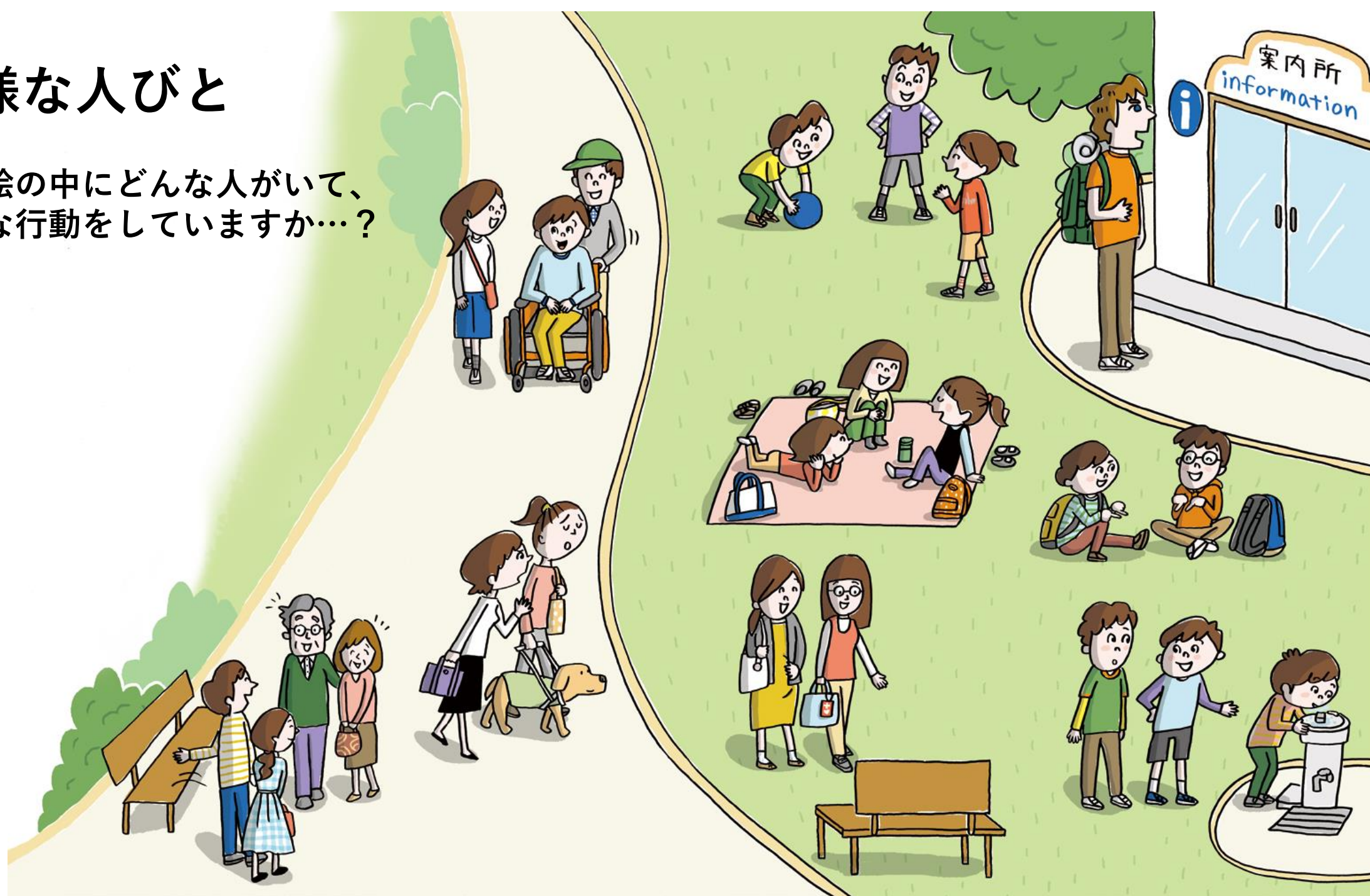
「気づかない」という心のバリアを取りはらい、バリアフリーの社会を実現する事。

バリアフリーの社会とは…

様々な違いのある人が、みんな同じように参加できて、いきいきと活動ができる社会。

多様な人びと

この絵の中にどんな人がいて、
どんな行動をしていますか…？



心のバリアフリー

「心のバリアフリーのポイント」

- 1.障害のある人のバリアは個人にあるのではなく、社会の中にあること
（障害の社会モデル）を理解し、心のバリアを取り除くのは社会の中の一人ひとりの責務であること。
- 2.障害のある人（およびその家族）に対して障害を理由とした**差別をせず、一人ひとり異なる配慮を十分に行う**こと。
- 3.自分とは異なる技能や要求をもつ多様な人びととコミュニケーションをとり、すべての人がかかえる困難や痛みを想像し、共感する力をつちかうこと。

差別しないって、どういうこと？

①



②



同じやり方ではなく、同じ結果になる事を考える
みんなが公平に参加できるように、工夫を続ける事が大切

③



④



心のバリアフリー : 障害の社会モデル

「心のバリアフリーのポイント」

1. 障害のある人のバリアは個人にあるのではなく、社会の中にあること
(障害の社会モデル) を理解し、心のバリアを取り除くのは社会の中の一人ひとりの責務であること。
2. 障害のある人（およびその家族）に対して障害を理由とした**差別をせず、一人ひとり異なる配慮を十分に行う**こと。
3. 自分とは異なる技能や要求をもつ多様な人びととコミュニケーションをとり、すべての人がかかえる困難や痛みを想像し、共感する力をつちかうこと。

障害の社会モデル

「障害」の概念は「**個人（医療）モデル**」から「**社会モデル**」へと変化しています。

・個人（医療）モデル

障害者が困難に直面するのは「その人に障害があるから」であり、克服するのはその人（と家族）の責任とする考え方。

障害は、個人的な問題として捉える。

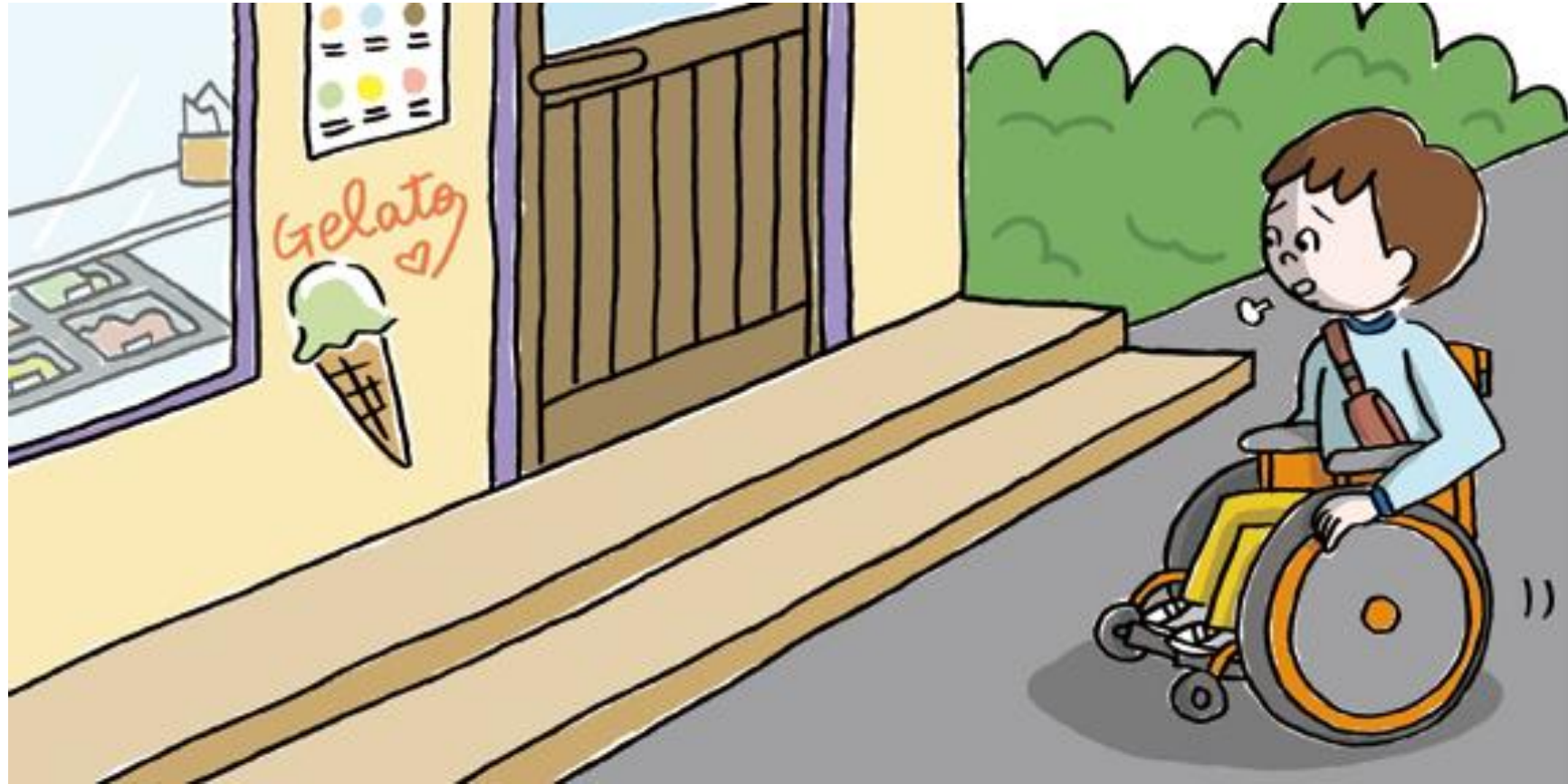
例：車いすで建物に入れないのは、障害のある人個人の問題。

・社会モデル

社会が「障害（障壁・バリア）」をつくっており、それを取り除くのは社会の責務とする考え方。障害は社会全体の問題として捉える。

例：車いすを使っている人が利用することを考えずに、建物をつくったことが問題。

バリアは、どこにある？



心のバリアフリー：合理的配慮

「心のバリアフリーのポイント」

- 1.障害のある人のバリアは個人にあるのではなく、社会の中にあること
(**障害の社会モデル**) を理解し、心のバリアを取り除くのは社会の中の一人ひとりの責務であること。
- 2.障害のある人（およびその家族）に対して障害を理由とした**差別をせず、一人ひとり異なる配慮を十分に行う**こと。
- 3.自分とは異なる技能や要求をもつ多様な人びととコミュニケーションをとり、すべての人がかかえる困難や痛みを想像し、共感する力をつちかうこと。

合理的配慮

障害者差別解消法[平成28年(2016年) 試行]



不当な差別的取り扱いの禁止：

障害を理由として、サービスの提供を拒否したり、利用を制限したりすることの禁止。

合理的配慮の提供：

バリアを感じた本人からバリアを取り除くよう要望があった時、負担が重すぎない範囲で対応をすること。

※公的機関、会社、お店、ボランティア活動をするグループを含む。

合理的配慮

障害者差別解消法[平成28年(2016年) 試行]



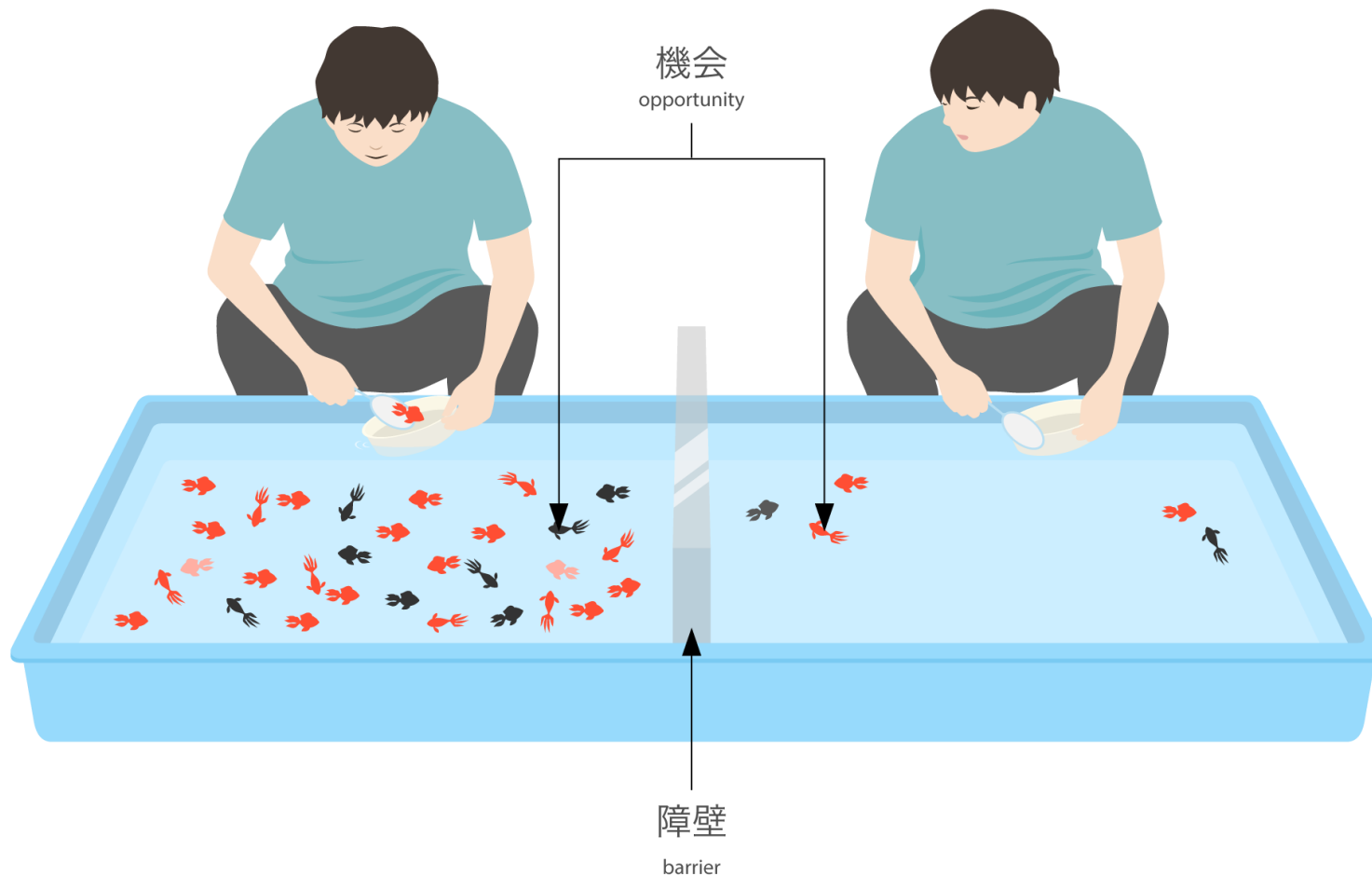
- 手話通訳や筆談具の提供
- 点字、拡大文字の案内作成
- 段差にスロープを用意する など

合理的配慮の提供：

バリアを感じた本人からバリアを取り除くよう要望があった時、負担が重すぎない範囲で対応をすること。

※公的機関、会社、お店、ボランティア活動をするグループを含む。

合理的配慮は、
社会的障壁（バリア）によって生まれた**機会の不平等**を正すためのもの



東京都写真美術館での社会包摂

東京都写真美術館での社会包摂的取り組み

- ・ 設備面の情報保障… 筆談具、UDトーク、ヒアリンググループ（ホール）
触地図（点字の館内案内）の用意

- ・ 盲導犬、介助犬、聴導犬は入館可能
- ・ 車いす、ハンディーウォーク（歩行車）、ベビーカーの貸し出し

プログラム

- ・ スクールプログラムでの特別支援学校の来館（またはアウトリーチ）
- ・ 手話通訳付き 展覧会トーク
- ・ インクルーシブ鑑賞ワークショップ
- ・ 子供の居場所づくり、シニアプログラム リサーチ

東京都写真美術館での取り組み

手話通訳付き 展覧会トーク



8月25日実施「メメント・モリと写真」展



7月14日実施「アヴァンギャルド勃興」展

東京都写真美術館での取り組み

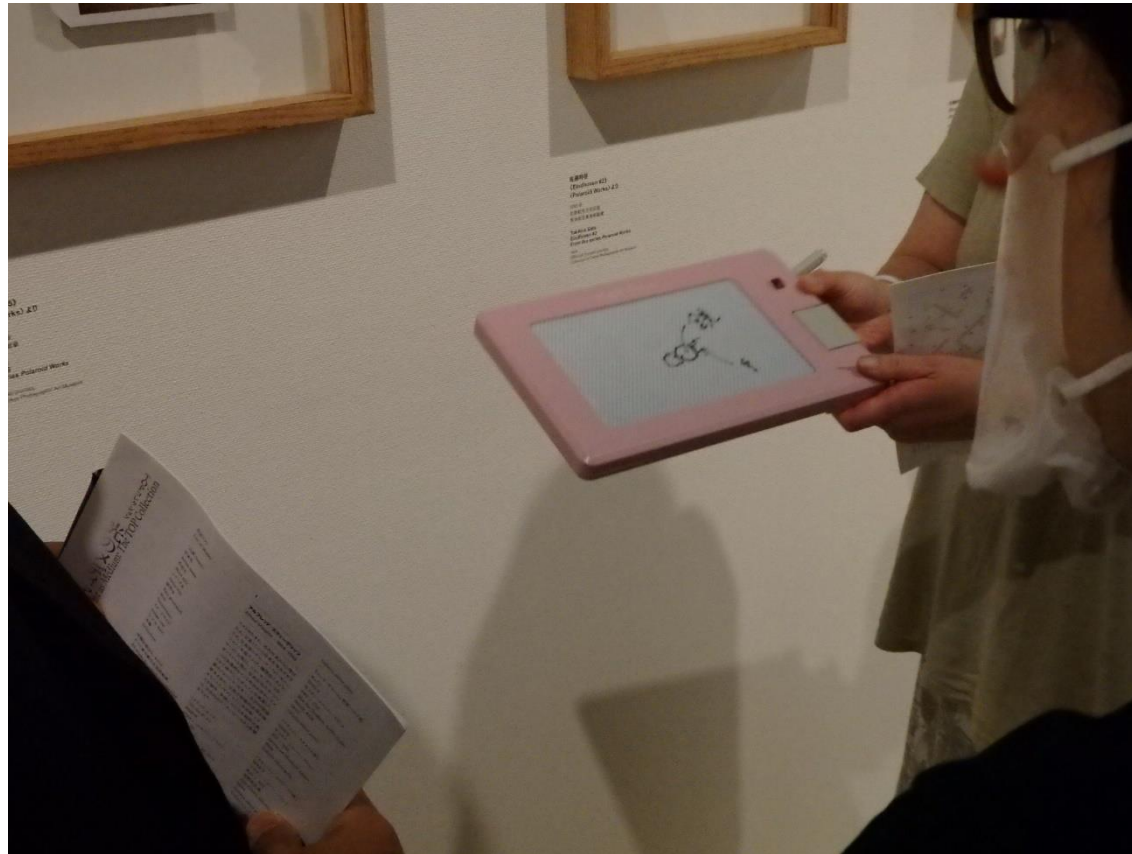
手話通訳付き 展覧会トーク



5月12日実施「TOPコレクション 光のメディア」展

東京都写真美術館での取り組み

手話通訳付き 展覧会トーク



5月12日実施「TOPコレクション 光のメディア」展

東京都写真美術館での取り組み

インクルーシブ鑑賞ワークショップ

「見るときどき見えない、のち話す、しだいに見える」

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

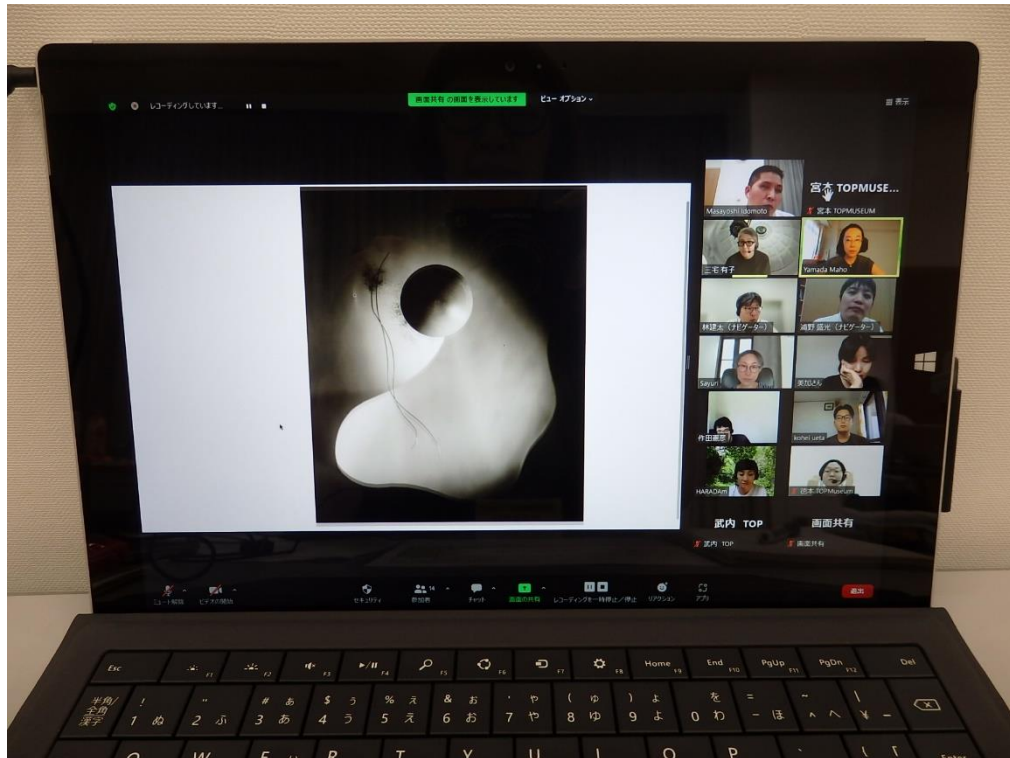


東京都写真美術館での取り組み

インクルーシブ鑑賞ワークショップ

「見るときどき見えない、のち話す、しだいに見える」

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ



東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）

こどもば NPO法人 めぐる子どもの場づくりを考える会 こどもば

お問い合わせ よくある質問



こどもばについて



活動内容



最新情報・お知らせ



なんでもトーク



参加・支援方法

子どもの場づくりを通じて、
顔の見えるまちづくりを。



ライフスタイルの多様化、社会環境の合理化などに伴い、
共助の意識、地域社会の繋がりの希薄化が進む中、

子どもたちが地域で見守られながら「地域の中で育つ」という環境づくりが困難になってきています。

子どもたちの強やかな育ちの為に、
子どもたちが地域社会の中に生きる大切な1人であることを自覚し、
いきいきと過ごせるまちづくりが必要であると私たちは考えています。



こどもばについて

子どもたちが、たのしくあそんだり、のんびりおしゃべりしたり、
ほっとできて、ふらっといけるような「子どものいばしょづくり」をしています。

[こどもばについて、くわしく知る >](#)



活動内容



子どもの居場所づくり

For kids



子育て支援

For parents



ボランティア育成

For volunteer



地域連携

With community

[こどもばの活動についてもっと知る >](#)

なんでもトーク
うけつけちゃう
はなしてみよう
かいてみよう

東京都写真美術館での取り組み

子供の居場所づくり（リサーチ）



おもてめんのQRコードからお申込みください。

こどもほ 夏休みの子ども食堂

中央町社会教育館
ていいん10名

夏休みのおひるの食堂！
たいしょう：小学生いじょうの子ども
さんかひ：むりょう

中央町
8/2(火)ひる

食堂&こうさく @ 中央町
8/2(火)ひる

食堂&夏休みのしゅくだい @ 中央町
8/18(木)ひる

上目黒住区センター
ていいん16名

夏休みのおひるの食堂！
たいしょう：小学生いじょうの子ども
さんかひ：むりょう

上目黒
8/9(火)ひる

食堂&こうさく @ 上目黒
7/26(火)ひる

食堂&夏休みのしゅくだい @ 上目黒
8/23(火)ひる

11:00 しゅうごう 1:30 まで
もちもの：エプロン・パンダナ
どちらも、じぶんのすきなぐさいをいれた、
おにぎり、サンドイッチをつくるよ！
【さんかは上目黒か中央町どちらか1つ】

食堂 11:30～・こうさく 1:00～
上目黒 2:00 まで、中央町 2:30 まで
夏休みの自由研究のヒントにも！
【さんかは上目黒か中央町どちらか1つ】

つくるもの：おどろき盤
【てづくりアニメーション】
もちもの：なし

つくるもの：青写真
【たいようの光で写真づくり】
もちもの：たいようにあてて、
うつしとりたいもの

詳しい工作内容は、申込みサイトに記載しております。

べんきょう勉強 10:00～・食堂 11:30～1:30
しよくごも勉強していいよ～3:00
もちもの：勉強するもの、ひつきょうぐ
夏休みのしゅくだいをおわらせよう！
ボランティアさんもおしえてくれるよ！
【上目黒と中央町、りょうほうさんかもOK】

東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）



7月実施 おどろき盤

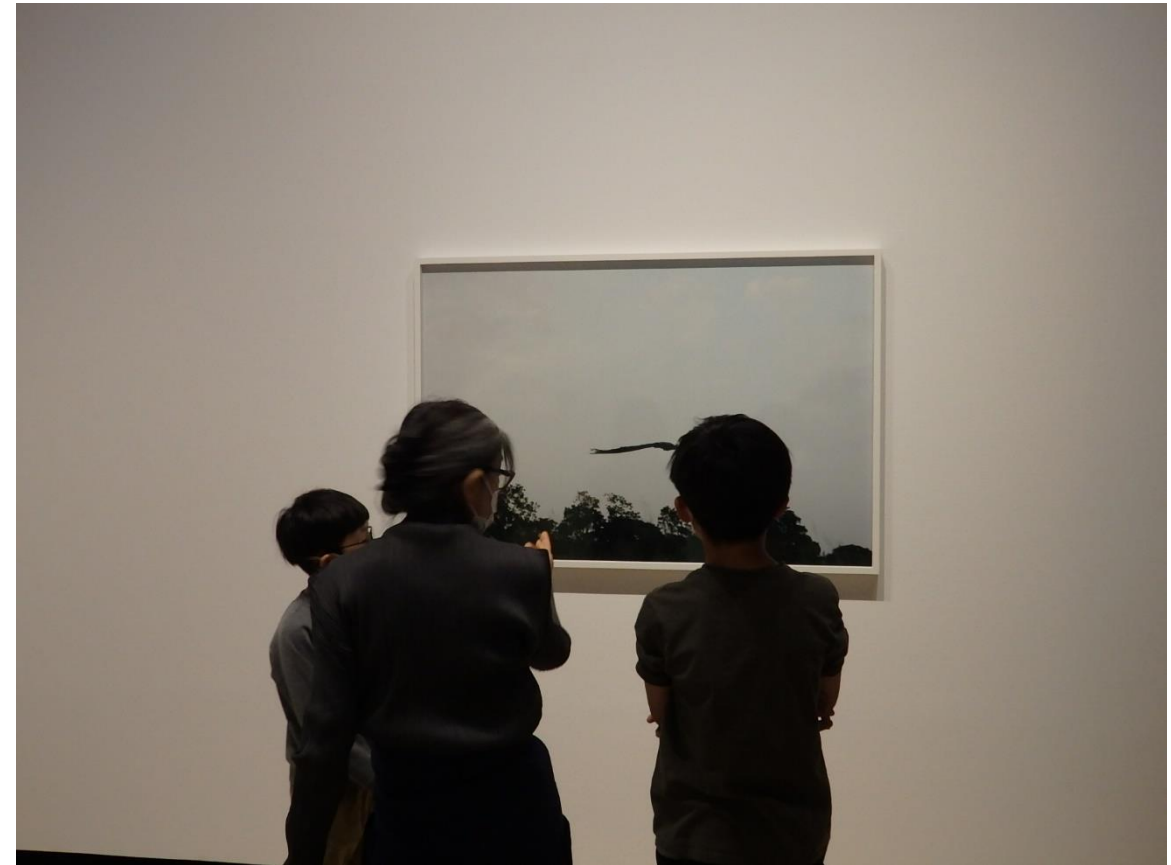
東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）



東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）



東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）



東京都写真美術館での取り組み 子供の居場所づくり（リサーチ）



東京都写真美術館での取り組み シニアプログラム（リサーチ）



5月25日 目黒区碑（いしぶみ）住区センター

プログラムサポートのポイント

・一人ひとりの参加者を見る。勝手に枠でくくって、先入観を持たない。

⇒「障害者だから」「子供だから」「お年寄りだから」「男だから」「女だから」「外国人だから」…という、先入観だけで行動すると危険です。

・参加者の前での言葉の選びは慎重に。

⇒特にグループの関係性に言及する際は、慎重に。

不用意な発言で相手に複雑な感情を抱かせることがあります。

例：目の前の方々、本当に「家族（親子、パパ、ママ、娘、息子）」

「カップル（夫婦、彼氏、彼女）」ですか？

言い換え例：大人の方、お子様、男性の方、女性の方

障害を持った方に、障害について直接的な質問はしない（どこに障害があるのか、障害を持つに至った経緯など）

サポートのポイント

・障害を持った方へのお手伝いは、まずご本人にどんなお手伝い（サポート）が必要か確認してから

⇒× 車いすを勝手に押す、視覚障害者の手を勝手に取り誘導する
介助者、手話通訳者が一緒の場面でも、コミュニケーションがとれる方であれば、必ずご本人に「お手伝いしましょうか」「どんなお手伝いが必要ですか」などの声掛けを。（筆談や、身振り手振りも可）

・曖昧な表現、日本語独自の表現は伝わりづらい事があります。

外国ルーツで日本語のコミュニケーションに慣れていない方、手話母語者（ろう者）などには、ぼかし言葉、二重否定、丁寧すぎる言葉遣いなど、伝わりづらい場合があります。そういった方には、端的に伝える、結論から話すなど、わかりやすい表現を心掛けましょう。Yes/No、できる/できない、どうして欲しいのかをはっきり伝える事が大切。はっきり言うと気を悪くするのでは…という心配はいりません。

サポートのポイント

・子供一人ひとり、事情が違います。

特に子供の居場所づくりのプログラムの場合、それぞれの家庭の事情や様子が垣間見える事があります。

プログラム中、会話を重ねていくと、家族・家庭の状況について子供が話す事もあります。（シングルペアレント、家の経済状況、家族が病気、仲が悪い など）

その際は、その言葉をそっと受け入れてあげてください。

「そうなんだね」…とか…？

（「可哀そうだね」といった同情の言葉。相手に共感しすぎるなど、過剰な言動や行動。驚きが表情に出てしまう…などにご注意。

あまりに話が深くなりすぎる場合は、話題を変えてみるのも手。）

※参加者の個人情報の取り扱いに注意

子供たちに、この場でプログラムを楽しんでもらう事（居場所づくり）に注力しましょう。

参考：

東京都歴史文化財団での取り組み
(他の東京都の美術館)

美術館（博物館） ・ 文化施設における取り組み

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー



だれもが文化でつながるプロジェクト

12の都立文化施設を運営している公益財団法人東京都歴史文化財団では、芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決への貢献を目指し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組んでいます。

美術館（博物館） ・ 文化施設における取り組み

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

「ウェルビーイング(well-being)」って何？



だれもが文化でつながるプロジェクト

世界保健機関（World Health Organization: WHO）が1946年に定めた「世界保健機関憲章」の前文において、「健康」は、以下のように記述されています

：健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

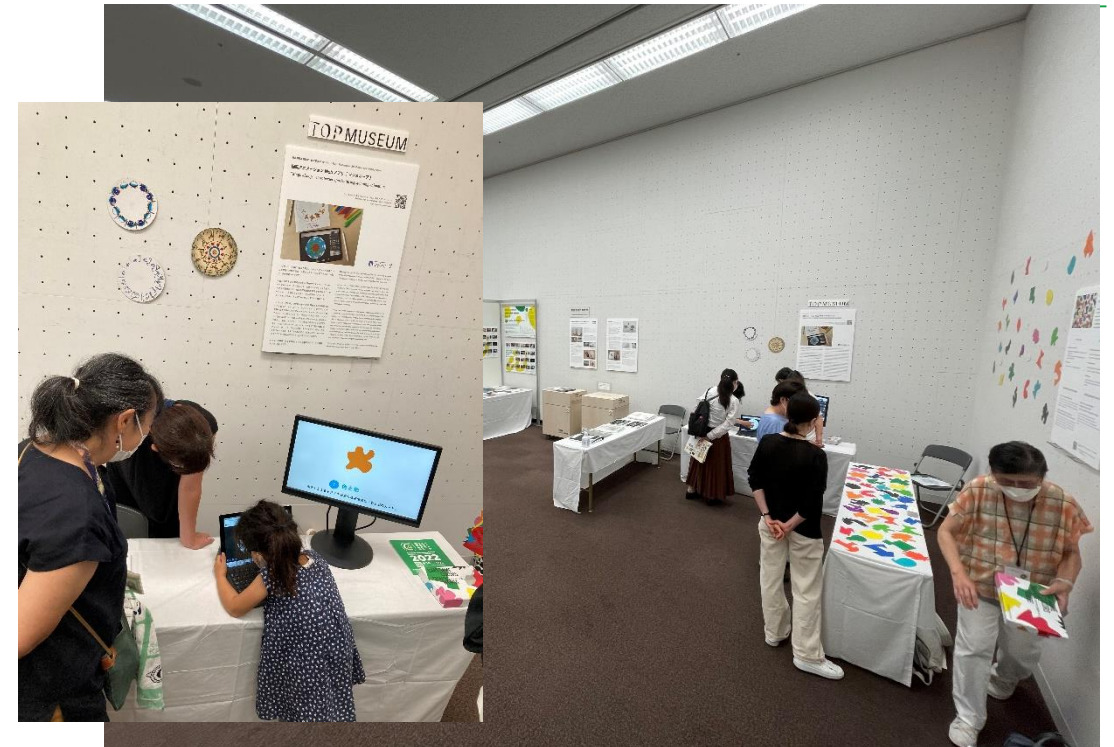
=肉体的（身体）・精神的・社会的な「健康（ウェルビーイング）」
や「満たされた状態」

美術館（博物館） ・ 文化施設における取り組み

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
だれもが文化でつながる国際会議（2022/6/28～7/7）



だれもが文化でつながるプロジェクト



美術館（博物館）・文化施設における取り組み



彫画のある方がより安心して鑑賞できるよう、特別展の休室日に開催する鑑賞会

東京国立近代美術館
鑑賞のある方のための特別鑑賞会



シニアの方がクリエイティブに作品に出会い交流できる参加型のプログラム

東京国立近代美術館
Creative Ageing イベント



様々な触覚ツールに“さわる”ことを通じて美術の世界を広げる

東京国立近代美術館
油彩画や版画などをテーマとした「触覚ツール」



特別支援学校や高齢者施設、社会福祉団体などにおける芸術ワークショップやコンサート

東京文化会館
ミュージック・ワークショップ
施設：イオンモール



多様な人との出会い方、つながり方に創造性を挑み働きかけていくアートプロジェクト

アーツカウンシル東京
TJUN
東京：TJUN / フェス / 2017年・文の森ホール / 講師：伊藤直二



復元建造物の新小規模型から、建物全体のプロポーザルや展覧の形など建物の造りを学ぶ

江戸東京博物館
復元建造物の探検隊

芸術文化とウェルビーイングをすべてのひとへ。

展示会の解説を、手話によって知る
演劇や音楽を、字幕や体感音響システムと共に楽しむ
ベビーカーや車いすで、重要文化財の建物や美術館へ出かける
多様な背景をもつ人々とワークショップに参加し、
文化を超えたつながりをつくる

東京国立近代美術館・博物館、音楽ホール・劇場では、だれもが芸術文化を楽しめる様々なプログラムを年間の約140回実施し、延べ約10,000人の参加者を迎えています。
また、特別支援学校・学校や福祉施設の受け入れ及びアウトリーチ活動も実施しています。



日本語以外を母語とする方も「やさしい日本語」を使って一緒に作品や建物を楽しむワークショップ

東京国立近代美術館
やさしい日本語で高層館を楽しむプログラム



赤ちゃんや車いす利用者にも気を遣わずに展覧会を鑑賞できる休館日の特別ツアー

東京国立近代美術館
ベビーといっしょにミュージアムツアー



説明会や学際情報などの鑑賞サポートで楽しむ展覧・音楽公演

東京国立近代美術館
社会契り会・交流懇話会 / ノータッチ手帳受け渡し



手話を母語とする方のための学芸員によるトークの展覧会鑑賞会

東京国立近代美術館
手話通訳による展覧会トーク



さまざまなバックグラウンドを持つ子どもたちが、アートの体験を通じて交流する

東京国立近代美術館
子どもたちのプログラム「Kids meet」シリーズ
東京：Kids meet / 「動物のワグワンランド」(2022)
講師：山崎



インクルーシブ・デザインで困難する文化芸術体験の未来のアクセシビリティ

東京国立近代美術館
障害者文化芸術のアクセシビリティ・コーディネーター
東京：「Story」展覧会
東京：「Culture」展覧会 / 展覧会ワークショップ
講師：山崎



特別支援学校・学校にも訪問、アーティストだからこそのユニークな出前授業

東京国立近代美術館
アーティストの一日学校訪問



世代、障害を超えて楽しめるコンサート

東京文化会館
リラックス・パフォーマンス
講師：伊藤直二



現場で学ぶアートプロジェクトの担い手のための手話講座

アーツカウンシル東京
手話と出会うアートプロジェクトの担い手のための手話講座
東京：Tokyo Art Research Lab (TARL) / YouTubeなど



学芸員が訪問し、模型やレプリカを活用したワークショップや展示を開催

東京都江戸東京博物館 (臨時休館中)
元々は移動型展示



からだの内から湧き出る自由な身体表現の楽しみを、多様な人たちがともに分かち合うインクルーシブダンス

東京国立近代美術館
展覧会鑑賞会



見える見えにくい、障壁の有無にかかわらず、あらゆる人が、ことばを交わしながら一緒に美術を鑑賞

東京国立近代美術館
インクルーシブ鑑賞ワークショップ「見えるときどき見えにくい、のち話す、したいに見える」



一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出する

東京国立近代美術館
アール・ブリュット展「はじめて見るさあどまな作品の展示」
東京：はじめて見る展覧会 (2022) / 講師：伊藤直二



国内外で制作をしたりクリエイターの作品を通して異文化に触れる展覧会

トーキョーアーツ・スペース (TOCAS)
シテンス・展覧会
東京：東京国立近代美術館 (2022) / 講師：山崎

美術館（博物館）・文化施設における取り組み



障害のある方のための特別鑑賞会

● 開催予定 ● 特別鑑賞会のご案内



障害のある方がより安心して鑑賞できるよう、特別展の休室日に開催する鑑賞会です。
事前申込制で特別展ごとに開催しています。アート・コミュニケーター（とびラー）が受付や移動のお手伝いをします。



シニア向けプログラム「Creative Ageing ずっとび」

美術館（博物館） ・ 文化施設における取り組み

MOT+
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO
OF ART
東京都現代美術館



公式YouTubeチャンネル
手話による東京都現代美術館のご案内

<https://www.youtube.com/watch?v=gxm-Vwouo28>

触って、みる、触察ツール（油彩画、版画）
画像：教育普及ブログより引用

お聞きいただいて、ありがとうございました！